

SHOW HEYシネマルーム



Data

監督・製作: キャスリン・ビッグロー
出演: ジェレミー・レナー/アンソニー・マッキー/ブライアン・ジェラティ/レイフ・ファインズ/ガイ・ピアース/デヴィッド・モース/エヴァンジェリン・リリー/クリスチャン・カマルゴ

👁️👁️ みどころ

爆弾処理班とは? あなたは、その任務と戦死の確率を知ってる? なぜ優秀なアメリカの若者たちはそんな任務に? 普天間基地の移転問題で迷走する、平和ボケした日本人は本作からそれをしっかり学びたい。日々生死の境目で生きる3人の主人公の人間観と世界観を、女性監督のキャスリン・ビッグローが見事に描写。その緊迫感はずばらしい。

こりゃひょっとして、『アバター』(09年)を大ヒットさせているジェームズ・キャメロン監督とともに、アカデミー賞を分け合い?

* * * * *

キャスリン・ビッグロー監督が女性だったとは!

近時『勇者たちの戦場』(06年)『大いなる陰謀』(07年)『さよなら。いつかわかること』(07年)『悲しみが乾くまで』(08年)など、イラク戦争を真正面から見つめた映画が次々と作られているが、ポール・ハギス監督の力作『告発のとき』(07年)はそんなハリウッドの良心を示す1本だった(『シネマルーム19』261頁参照)。

ところで、あなたは「イラクにおける米軍兵士の戦死理由の半分以上が”爆弾”であり、爆発物の処理に携わる技術兵の死亡率は他の兵士よりもはるかに高いという現実」を知ってる? そんな爆発物処理班の活躍に焦点をあてた本作は、『告発のとき』の原案提供者としても有名なマーク・ボールのイラクでの取材体験にもとづいて完成したもの。チラシに「本年度アカデミー賞最有力作品」と書かれている本作は、ハリソン・フォード艦長の演技が光った『K 19』(02年)(『シネマルーム2』97頁参照)以来の長編映画に取り組んだキャスリン・ビッグロー監督によるものだ。

私が今回はじめて知ったのは、このキャスリン・ビグロー監督は女性だったということ。あのジェームズ・キャメロン監督と1989年に結婚し、1991年に離婚した1951年生まれ女性だと知ってビックリ。マーク・ポールによる脚本の力を借りたとはいえ、女性の身で爆発物処理班に焦点をあてた何とも迫力のある本作のような映画を完成させたのはすごいものだ。

かつての夫婦がアカデミー賞を仲良く分け合い？

1月27日付朝刊各紙は、現在大ヒットしているジェームズ・キャメロン監督の『アバター』が昨年12月18日の公開以降わずか39日間で同監督の『タイタニック』（97年）を抜き、史上最高の興行収入をあげたことを報じた。私が映画検定の受験勉強で学んだ史上最高となる『タイタニック』の興行収入は18億4290万ドル（約1660億円）だったが、『アバター』は1月25日までの世界での興行収入が18億5500万ドル（約1670億円）以上に達したとのことだ。『タイタニック』が1年半をかけてつくった記録をわずか39日間で塗り替えたのだから、『アバター』のすごさは前人未到。さて、これからどこまで記録を伸ばすのだろうか？

そんな興味も津々だが、本作のすばらしい出来を考えると、今年はひょっとしてアカデミー賞の数々を、かつての夫婦が仲良く分け合いながら受賞するかも？

処理した爆発物数VS魁皇の幕内通算勝ち星数

大相撲初場所は大方の予想に反して朝青龍が史上単独3位となる25度目の優勝を果たしたが、それ以上に注目を集めた（？）のが、千代の富士の806勝を抜いて史上第1位となる幕内通算勝ち星をあげた大関魁皇の活躍。昨年は6場所すべて8勝7敗とあまり偉そうにできない成績だったが、初場所は9勝6敗と立派な成績を残し、幕内通算勝ち星は815勝となった。春場所は幕内在位100場所の節目だから、さらなる活躍を期待したい。

そんな魁皇の勝ち星を上回るのが、本作の主人公ウィリアム・ジェームズ二等軍曹（ジェレミー・レナー）の爆弾処理数873という数字だ。映画冒頭に登場するのは、すさまじい大爆発の中で防護服を着たまま死亡する班長マット・トンプソン軍曹（ガイ・ピアース）の姿。それに代わって、ブラボー中隊の班長としてイラクのヴィクトリー基地に赴任してきたのがジェームズ二等軍曹。爆発物処理班の基本ルールを平気で破りながら、あくまで冷静にそして神ワザのような技術で爆弾処理をしていくジェームズ二等軍曹の姿に、J.T.サンボーン軍曹（アンソニー・マッキー）もオーウェン・エルドリッジ技術兵（ブライアン・ジェラティ）もビックリ。

そんなジェームズ二等軍曹の自信は、それまでに処理してきた爆弾の数が873個にもほるといふ実績に裏づけられたものらしいが、危険で苛酷な現場においては何よりもチ

ームワークが大切なはず。さてブラボー中隊において、ジェームズ二等軍曹、サンボーン軍曹、エルドリッジ技術兵の3人は以降チームワークよく爆弾処理に当たることができるのだろうか？

「イラク戦争反対」と叫ぶだけでは・・・

1967年から始まった私の大学生活において私は学生運動に情熱を燃やしたが、その時の国際的な闘争テーマは何よりもアメリカによるベトナム侵略戦争反対。ボブ・ディランの『風に吹かれて』やジョン・バエズの『花はどこへ行った』『勝利を我等に』をはじめとする反戦フォークソングが流行する中、私たちの運動は大きな高揚を迎え、遂にアメリカはベトナムから撤退することに・・・。

他方、2001年の9・11テロ以降始まったのがアフガン・イラク戦争だが、オバマ大統領が掲げた2010年8月31日までにイラクから撤退させるとの公約の実行は？2009年の8・30総選挙で「政権交代」を果たした民主党は、新テロ対策特別措置法を延長しないことによって2010年1月15日インド洋での自衛隊艦船による給油活動を中止したが、今なおアメリカの軍人たちはアフガニスタンやイラクに留まって苛酷な戦闘に従事している。そんな状況の中、私たちは単に「アフガン戦争反対！」「イラク戦争反対！」を叫ぶだけで済ませていいのだろうか？本作のように爆発物処理班として危険な任務に取り組んでいるジェームズ二等軍曹たちの姿をみると、ついそう考えてしまう。アメリカがわざわざアフガンやイラクまで行って戦うのは一体何のため？それをとことん突き詰めて考えなければ「日本にアメリカの基地はほらない」という単純な議論となり、日本の安全保障と国益に大きなマイナスになってしまうのでは？

草食系男子の増殖や成人式で酒を飲んで壇上かけ登るバカ成人たちの姿をみていると、ジェームズ二等軍曹のようになるのはとても無理だとしても、こいつらこそ韓国のように徴兵して根本から訓練する必要があるのでは？ついそう考えてしまうが、ひょっとして、こりゃ危険思想？

鳩山由紀夫総理こそ、軍曹の独断性と決断力を！

去る1月24日の名護市長選挙で基地移設反対派の稲嶺進氏が容認派の島袋吉和氏を敗って当選した。これによって、普天間基地の名護市への移設という選択肢は事実上消滅？そう考えるのが一般的だが、この期に及んで鳩山総理は「ゼロからの出発」「あらゆるものが選択肢に入ってくる」と表明したから、わしゃワケわからん！こんな状態でホントに5月末までに普天間基地の移設問題にケリが付き、アメリカを納得させることができるの？

鳩山内閣と民主党の支持率が落ちてきたのは小沢一郎幹事長による4億円疑惑問題もあるが、鳩山由紀夫総理の八方美人的傾向が顕著になってきたことが大きい。そんな鳩山由紀夫総理にぜひ参考にしてもらいたいの、ジェームズ二等軍曹の独断性と決断力。ジェ

ームズ二等軍曹はなぜ過去873個もの爆弾の処理に成功したの？それはジェームズ二等軍曹自身も十分わかっていないよう。また本作をみても、ジェームズ二等軍曹の独断専行ぶりはかなり問題が多い。しかし、誰も助けてくれない戦争の現場において頼るのは自分しかないわけだから、ルールやマニュアル以上に信じるべきは自分のカン。また何よりもすごいのはジェームズ二等軍曹の決断力。

鳩山由紀夫総理がルールやマニュアル以上に自分のカンを信じて行動するのはいかなものかとは思いますが、ジェームズ二等軍曹の爪の垢を少しでも煎じて飲めば、八方美人病に少しは効くのでは？



(C) 2008 HURT LOCKER, LLC. ALL RIGHTS RESERVED.
PG12 作品 全国絶賛公開中

コンビの妙に注目！

本作の主人公はジェームズ二等軍曹だが、ジェームズ二等軍曹より先にブラボー中隊で爆弾処理作業に従事していたのがサンボーン軍曹とエルドリッジ技術兵。エルドリッジ技術兵はまだ若く上司の命令や指示がなければ十分に動けないが、優秀で生真面目なサンボーン軍曹は存在感が強い。したがって、何かと独断的にルールを無視した行動をとるジェームズ二等軍曹に対して真正面から意見を言えるのはこのサンボーン軍曹だけだから、本作ではこの2人のコンビの妙に注目！

私の大学時代とほぼ同じ時期の1966～1970年まで『0011ナポレオン・ソロ』という人気テレビ番組があったが、そこで面白かったのはロバート・ヴォーン扮するナポレオン・ソロとデヴィット・マッカラム扮するイリヤ・クリヤキンという、性格が全く異なる2人のコンビの妙。ロバート・ヴォーンとデヴィット・マッカラムが同じスパイとして協力し合って難事件を解決していくサマはユーモアたっぷり面白かった。

本作でジェームズ二等軍曹、サンボーン軍曹コンビの能力が最大限発揮されるのは、請負チームリーダー（レイフ・ファインズ）を助けようとした際に起きたテロリストとの戦闘シーン。じっと地面に伏せた状態でライフル狙撃するのがサンボーン軍曹の役目、望遠レンズで敵の動静を探り射撃のアドバイスをするのがジェームズ二等軍曹の役目だが、スクリーンから伝わってくる息を呑むような緊張感はずごい。850メートルも先に潜む敵に見事命中した時は、思わず「やった！」と叫びそうになるほど手を握りしめていたものだ。ここでは戦闘経験の浅いエルドリッジ技術兵も大活躍するが、とにかくジェームズ二等軍曹とサンボーン軍曹のコンビの妙に注目！

人間爆弾の姿を見て・・・

現在の日本人や日本のマスコミは、アフガンやイラクにおける自爆テロや人間爆弾の悲劇をみて一様に「信じられない」という顔をする。しかし、視点を60数年前に戻してみれば、神風特別攻撃隊を発明し実行した（させた）日本人こそ、自爆テロや人間爆弾の走りだったのでは？

ジェームズ二等軍曹が地元の少年たちとサッカーに興じていたのは意外だったが、彼がある日の任務で発見したのは、友人のベッカム少年の腹に埋められた爆弾。なるほど、人間爆弾とはこんな風に人間の腹の中に埋め込むのかということがはじめて理解できたが、「これは人道に許されることではない！」とヒステリックに叫んでも、何の解決にもならず、現実が現実。平和に馴れてしまい完全に平和ボケしてしまっている今の日本人は、少なくともイラクで起きているこんな現実を知るべき義務があるのではないだろうか？自爆テロに走る側も命をかけた戦いなら、その爆弾処理に命をかけるのがブラボー中隊。彼らはそれぞれどんな思いでそんな任務に命をかけて従事しているのだろうか？

遠い安全な島国のキレイな映画館の中ながら、少しはそんなことに思いを至すことが大切だ。

2010（平成22）年1月27日記